



システム MTU の設定

- [MTU について \(1 ページ\)](#)
- [システム MTU サイズの設定方法 \(2 ページ\)](#)
- [システム MTU の設定例 \(2 ページ\)](#)
- [MTU の機能情報 \(3 ページ\)](#)

MTU について

すべてのデバイスインターフェイスで送受信されるフレームのデフォルトの最大伝送ユニット (MTU) サイズは、1500 バイトです。

すべてのギガビットイーサネットインターフェイスおよび 10 ギガビットイーサネットインターフェイスではスイッチドジャンボフレームをサポートし、すべてのルーテッドポートではルーテッドフレームをサポートするように MTU サイズを変更できます。

すべてのインターフェイスで送受信されるフレームのデフォルト最大伝送単位 (MTU) サイズは、1500 バイトです。また、**system mtu jumbo** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用すると、すべてのギガビットイーサネットインターフェイス上でジャンボフレームをサポートするように MTU サイズを増やすことができます。



(注) スイッチは CPU でジャンボフレームをサポートします。

`system mtu` コマンドはギガビットイーサネットポートには影響せず、`system mtu jumbo` コマンドは 10/100 ポートには影響しません。`system mtu jumbo` コマンドを設定していない場合、`system mtu` コマンドの設定はすべてのギガビットイーサネットインターフェイスに適用されます。

システム MTU サイズの設定方法

システム MTU の設定

10/100 インターフェイスまたはギガビットイーサネットインターフェイスすべての MTU サイズを変更するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	system mtu bytes 例： Device(config)# system mtu 1500	(任意) スイッチスタックのすべてのインターフェイスに対して MTU サイズを変更します。 1500、2026、または jumbo と入力して MTU サイズを指定します。 jumbo の MTU 値は 10218 です。 routing はシステムのルーティング MTU を設定します。
ステップ 3	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	copy running-config startup-config 例： Device# copy running-config startup-config	コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。
ステップ 5	do show system mtu 例： Device# do show system mtu	

システム MTU の設定例

次に、ギガビットイーサネットポートの最大パケットサイズを 1500 バイトに設定する例を示します。

```
Device(config)# system mtu 1500
```

次に、**show system mtu** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show system mtu
System MTU size is 1500 bytes.
```

MTU の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコ ソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

機能名	リリース	機能情報
[MTU]	Cisco IOS Release 15.2(7)E1	この機能が導入されました。

